

日 本 国 特 許 庁  
JAPAN PATENT OFFICE

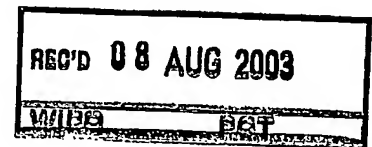
23.06.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日  
Date of Application: 2003年 4月21日

出 願 番 号  
Application Number: 特願2003-115762  
[ST. 10/C]: [JP2003-115762]



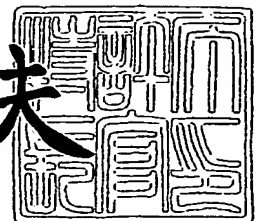
出 願 人  
Applicant(s): スガツネ工業株式会社

**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 7月25日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 P03042

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 A47G 25/12

【発明者】

    【住所又は居所】 東京都千代田区東神田 1 丁目 8 番 1 1 号 スガツネ工業株式会社内

    【氏名】 真部 幸美

【特許出願人】

    【識別番号】 000107572

    【氏名又は名称】 スガツネ工業株式会社

【代理人】

    【識別番号】 100085556

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 渡辺 昇

【選任した代理人】

    【識別番号】 100115211

    【弁理士】

    【氏名又は名称】 原田 三十義

【手数料の表示】

    【予納台帳番号】 009586

    【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

    【物件名】 明細書 1

    【物件名】 図面 1

    【物件名】 要約書 1

    【包括委任状番号】 0106503

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 傘立て

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 傘立て本体と、この傘立て本体に長手方向を前後方向に向けて設けられた支持部材と、この支持部材の左右両側部のうちの少なくとも一方の側部に支持部材の長手方向に並んで設けられた複数の傘保持具とを備えたことを特徴とする傘立て。

【請求項 2】 上記傘立て本体の左右方向の少なくとも一側部には、左右方向において上記傘保持具より外側に配置された左右方向外側を向く基準面が設けられており、上記基準面と上記傘保持具との間の左右方向における間隔が所定の間隔に設定されていることを特徴とする請求項 1 に記載の傘立て。

【請求項 3】 上記傘立て本体が、上端部に上記支持部材が設けられた支柱部と、上記支持部材の下方にほぼ水平に配置され、傘から落下する水を受け止める水受け部とを有しており、上記支柱部と上記水受け部との少なくとも一方の左右方向における一側部に上記基準面が形成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の傘立て。

【請求項 4】 上記支持部材が一つ設けられ、上記傘保持具が上記支持部材の両側部に設けられていることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の傘立て。

【請求項 5】 上記基準面が上記傘立て本体の両側部にそれぞれ形成されていることを特徴とする請求項 4 に記載の傘立て。

【請求項 6】 上記支持部材の基端部が上記支柱部の上端部に上下方向へ回動可能に設けられ、上記支持部材の回動範囲が、上記支持部材の先端部が基端部に対して前方に位置する使用位置と、上記支持部材の先端部が基端部に対してほぼ鉛直下方に位置する収容位置との間に設定され、

上記支持部材の下端部に上記水受けの部の基端部が回動可能に設けられ、上記水受け部の回動範囲が、上記水受け部が上記傘保持具に保持された傘から落ちる水を受けるためにほぼ水平になった水受け位置と、上記水受け部の先端部が基端部に対してほぼ鉛直上方に位置する折畳位置との間に設定され、

上記支柱部が、上記収容位置に回動した上記支持部材、この支持部材に設けられた上記傘保持具、及び上記折畳位置に回動した水受け部を収容することができるよう、前面が開口した箱状に形成されていることを特徴とする請求項3～5のいずれかに記載の傘立て。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

この発明は、傘を傘保持具によって保持するように構成された傘立てに関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に、この種の傘立ては、傘立て本体と、この傘立て本体の上端部に長手方向を左右方向に向けて設けられた支持部材と、この支持部材の前方を向く側面に左右方向に並んで設けられた多数の傘保持具とを備えている。各傘保持具は、その前面に収容凹部が形成されており、この収容凹部にその前面開口部から傘の柄部を挿入すると、ロック部材が柄部の挿入に連動して動作する。そして、傘が収容凹部の奥まで挿入されると、ロック部材により傘の柄部が収容凹部に脱出不能に保持される（例えば、特許文献1参照。）。

【0003】

【特許文献1】

特開平8-308711号公報（第2～3頁、図1、図2）

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

上記従来の傘立てにおいて、空いている傘保持具に傘を保持させる場合には、支持部材が左右方向に延びているため、傘を左右方向に移動させなければならず、前方から空いている傘保持具まで移動させることができない。しかも、上記公報に記載の傘立て具においては、前後に隣接する支持部材の左右両端部間が閉じられているため、傘を一旦傘保持具より上方へ移動させなければならない。傘を傘保持具より上方へ移動させると、傘に付着した雨水が滴り落ちて他の傘保持具

に全て保持されている傘の特に柄部を濡らしてしまうという問題があった。

#### 【0 0 0 5】

##### 【課題を解決するための手段】

この発明は、上記の問題を解決するためになされたもので、傘立て本体と、この傘立て本体に長手方向を前後方向に向けて設けられた支持部材と、この支持部材の左右両側部のうちの少なくとも一方の側部に支持部材の長手方向に並んで設けられた複数の傘保持具とを備えたことを特徴としている。

この場合、上記傘立て本体の左右方向の少なくとも一側部には、左右方向において上記傘保持具より外側に配置された左右方向外側を向く基準面が設けられており、上記基準面と上記傘保持具との間の左右方向における間隔が所定の間隔に設定されていることが望ましい。

上記傘立て本体が、上端部に上記支持部材が設けられた支柱部と、上記支持部材の下方にほぼ水平に配置され、傘から落下する水を受け止める水受け部とを有しており、上記支柱部と上記水受け部との少なくとも一方の左右方向における一側部に上記基準面が形成されていることが望ましい。

上記支持部材が一つ設けられ、上記傘保持具が上記支持部材の両側部に設けられていることが望ましい。この場合には、上記基準面が上記傘立て本体の両側部にそれぞれ形成されていることが望ましい。

上記支持部材の基端部が上記支柱部の上端部に上下方向へ回動可能に設けられ、上記支持部材の回動範囲が、上記支持部材の先端部が基端部に対して前方に位置する使用位置と、上記支持部材の先端部が基端部に対してほぼ鉛直下方に位置する収容位置との間に設定され、上記支持部材の下端部に上記水受け部の基端部が回動可能に設けられ、上記水受け部の回動範囲が、上記水受け部が上記傘保持具に保持された傘から落ちる水を受けるためにほぼ水平になった水受け位置と、上記水受け部の先端部が基端部に対してほぼ鉛直上方に位置する折畳位置との間に設定され、上記支柱部が、上記収容位置に回動した上記支持部材、この支持部材に設けられた上記傘保持具、及び上記折畳位置に回動した水受け部を収容することができるよう、前面が開口した箱状に形成されていることが望ましい。

#### 【0 0 0 6】

**【発明の実施の形態】**

以下、この発明の実施の形態について図1～図15を参照して説明する。

図1～図7は、この発明の第1の実施の形態を示す。この実施の形態の傘立てAは、図1～図3に示すように、傘立て本体1を備えている。傘立て本体1は、長手方向を上下に向けて立設された支柱部2と、この支柱部2の下端部に設けられた水受け部3とを有している。

**【0007】**

支柱部2は、前面が開口した箱状に形成されている。支柱部2の上端面の左右方向における両端部には、一对の軸受部2a、2aが一体に設けられている。支柱部2の上壁部のうち、一对の軸受部2a、2a間に位置する部分には、切欠き部2bが形成されている。支柱部2の下壁部には、切欠き部2cが形成されている。この切欠き部2cは、左右方向において切欠き部2bとほぼ同一の位置に配置され、切欠き部2bとほぼ同一の幅（左右方向の幅）を有している。

**【0008】**

一对の軸受部2a、2a間には、支持部材4の基端部が挿入されている。支持部材4の基端部は、軸受部2a、2aにより左右方向に延びる水平な軸線を中心として上下方向へ回動可能に支持されている。支持部材4の回動範囲は、支持部材4の先端部がその基端部に対して水平方向前方に位置する使用位置と、支持部材4の先端部がその基端部に対して鉛直下方に位置する収容位置との間に規制されている。支持部材4は、使用位置に位置しているときには、支柱部2と支持部材4との間に設けられた係止機構（図示せず）により、使用位置に維持されている。係止機構による係止を解除すると支持部材4が使用位置から収容位置まで回動可能になる。支持部材4が収容位置に回動すると、支持部材4の軸受部2a、2aに対して下側に隣接する部分が切欠き部2bに入り込むとともに、支持部材4の切欠き部2bより下側の部分のほぼ全体が支柱部2の内部に収容される。

**【0009】**

図2、図5及び図6に示すように、支持部材4の左右方向における一側部（図5において左側部）には複数の傘保持部5が設けられ、他側部には複数の傘保持部5'が設けられている。したがって、傘保持具5、5'は、支持部材4と一体

に使用位置と収容位置との間を回転する。しかも、傘保持具 5, 5' は、支持部材 4 が収容位置に回転すると、ほぼ全体が支柱部 2 の内部に収容されるようになっている。

#### 【0010】

傘保持具 5 と傘保持具 5' とは、図 2 から明かなように、支柱部 2 の左右方向における中央を通る線に関して左右対称に設けられている。そこで、傘保持具 5 についてのみ説明し、傘保持具 5' については傘保持具 5 と同様な部分に同一符号を付してその説明を省略する。なお、傘保持具 5 の構成は、傘保持具 5 が使用位置に回転した状態に基づいて説明する。

#### 【0011】

傘保持具 5 の左方を向く一側面 5 a には、収容凹部 5 b が形成されている。この収容凹部 5 b は、後方へ向うにしたがって深さが深くなるように、前後方向に対して傾斜した状態で形成されている。傘保持具 5 が解錠状態になっているとき、収容凹部 5 b の奥側の端部には、ロック部材 5 c の当接部 5 d が配置されており、開口部側にはロック部材 5 c の係合部 5 e が配置されている。傘の柄部（図示せず）が収容凹部 5 b にその開口部から傾斜方向にほぼ沿って挿入されて当接部 5 d に突き当たると、当接部 5 d が柄部によって同方向へ変位させられる。すると、ロック部材 5 c が回転して、その係合部 5 e が図 5 において矢印で示すように回転変位し、傘の柄部が収容凹部 5 b からその開口部を通して脱出するのを阻止される。このようにして傘保持具 5 が施錠状態になる。施錠時には、傘保持具 5 の鍵 5 f が鍵穴 5 g から抜き取り可能であり、鍵 5 f を鍵穴 5 g から抜き取ることによって盗難が防止される。傘の柄部を収容凹部 5 b から抜き出す場合には、鍵孔 5 g に鍵 5 f を挿入して開方向（図 5 において「OPEN」で示される矢印方向）へ回転させる。すると、ロック部材 5 c が同方向へ回転して当接部 5 d 及び係合部 5 e が図 5 に示す元の解錠位置に戻る。これにより、傘を収容凹部 5 b から抜き出すことができる。なお、傘保持具 5 の施錠及び開錠機構は、周知のものと同様であるのでその詳細な説明は省略する。

#### 【0012】

傘保持部 5 の左方を向く一側面 5 a は、傘立て A 全体のうちで最も左側に位置

する支柱部 2 の左側面（基準面）2 d に対して所定距離だけ内側に離れて配置されている。側面 2 d, 5 a 間の左右方向における長さ（間隔）は、例えば次のいずれかの寸法に設定されている。なお、この実施の形態では、傘保持部材 5 の右方を向く側面 5 a も、傘立て A 全体のうちで最も右側に位置する支柱部 2 の右側面（基準面）2 e に対して側面 2 d, 5 a 間の距離と同一距離だけ内側に離れて配置されている。

#### 【0013】

いま、支柱部 2 の側面 2 d を鉛直な壁面に面接触させ、それによって支持部材 4 を当該鉛直な壁面と平行に配置したものとする。すると、壁面と傘保持具 5 の側面 5 a との間には、側面 2 d, 5 a 間の間隔と同一の寸法を有する隙間が形成される。この隙間を通して傘を壁面と傘保持具 5 との間に挿入することができるように、側面 2 d, 5 a 間の間隔が設定されている。

#### 【0014】

また、図 2 又は図 3 に示すように、複数の傘立て A を支柱部 2 の一側面 2 d と他側面 2 e とが面接触するようにして左右方向に並べたものとする。このときには、一方の傘立て A の傘保持具 5（5'）の側面 5 a と他方の傘立て A の傘保持具 5' ,（5）の側面 5 a との間に側面 2 d, 5 a 間の間隔の 2 倍の寸法を有する隙間が形成される。この隙間を通して傘を傘立て A の傘保持具 5（5'）と傘立て A の傘保持具 5' ,（5）との間に挿入することができるように、側面 2 d , 5 a 間の間隔が設定されている。

#### 【0015】

支柱部 2 の前面の下端部には、水受け部 3 の基端部が水平な軸線を中心として回動可能に支持されている。水受け部 3 は、上面が開口した深さの浅い平面視長方形の容器状に形成されている。水受け部 3 は、いずれの傘保持具 5 に保持された傘から滴り落ちる水滴をも受け止めることができるように、その前後方向の長さ及び左右方向の幅が定められている。しかも、水受け部 3 の幅は、そのような条件を満たす範囲において支柱部 2 の左右方向の幅より狭く設定されている。したがって、水受け部 3 の両側面は、支柱部 2 の両側面（基準面）2 d, 2 e より左右方向において内側に位置している。



## 【0016】

水受け部3の回動範囲は、その先端部が支柱部2からほぼ水平方向前方に延びる図1に示す水受け位置と、先端部が基端部からほぼ鉛直上方に向って延びる折畳位置との間に規制されている。水受け部3は、傘立てAの通常の使用時には、使用位置に位置させられ、傘保持部5に保持された傘から滴り落ちる水滴を受け止める。その一方、傘立てAの不使用时には、折畳位置に回動させられる。このとき、水受け部3の上面の先端部が収容位置に位置させられた傘保持具5の上面にほぼ接触した状態になっている。

## 【0017】

支柱部2の前面の左右方向の一側部には、化粧蓋6の一側部が上下方向を向く軸線を中心として図4において実線で示す閉位置と、想像線で示す開位置との間を回動可能に設けられている。化粧蓋6は、開位置に位置したときには、支持部材4及び傘保持具5が使用位置と収容位置との間を回動するのを許容するとともに、水受け部3が水受け位置と折畳位置との間を回動するのを許容する。化粧蓋6は、閉位置に位置したときには、収容位置に回動した支持部材4の上端部を除く全体、支持部材4に設けられた全ての傘保持具5及び水受け部3を覆い隠す。化粧蓋6は、支持部材4が使用位置に位置し、かつ水受け部3が水受け位置に位置した傘立てAの使用時にも、閉位置に回動させられ、支柱部2の内部を覆っている。化粧蓋6の左右方向の幅は、支柱部2の左右方向の幅より狭くなっており、化粧蓋6が閉位置に位置したとき、その左右方向の両側面は、支柱部2の両側面2d, 2eより左右方向において内側に位置している。

## 【0018】

上記構成の傘立てAにおいては、使用位置に位置している支持部材4が前後方向に延びており、それに対応して傘保持具5, 5'が前後方向に並んで設けられているので、傘を前後方向に移動させて空いている傘保持具5, 5'まで移動させることができる。特に、図2又は図3に示すように、複数の傘立てAを左右に並べて設けた場合であっても、一方の傘立てAの傘保持具5, (5')と他方の傘立てAの傘保持具5', (5)との間には隙間が形成されるので、この隙間を通して傘を後方へ移動させて、空いた傘保持具5 (5')のところまで移動させ

ることができる。しかも、一方の傘立てAの傘保持具5, (5') と他方の傘立てAの傘保持具5', (5) との間に形成される隙間は、前方に開放されているので、傘を空いている傘保持具5 (5') まで移動させるときに、一旦傘立てAの上側へ移動させる必要がない。したがって、傘立てAに保管させようとする傘から滴り落ちる水滴により、傘立てAに既に保管された他の傘の柄部等を濡らすような事態を未然に防止することができる。さらに、支持部材4の両側部に傘保持具5, 5' が設けられているので、一側部にのみ設ける場合に比して傘保持具5, 5' の設置数を増やすことができる。このような点は、傘立てAを鉛直な壁面に沿って配置した場合も同様である。なお、支持部材が左右方向に延びている従来の傘立てにおいても、支持部材の両側部に傘保持具を設けることは可能であるが、そのようにした場合には支持部材の後側に配置された傘保持具の使い勝手が非常に悪いという問題がある。

#### 【0019】

次に、この発明の他の実施の形態について説明する。なお、以下の実施の形態については、上記実施の形態と異なる構成についてのみ説明し、同様な部分には、同一符号を付してその説明を省略する。

#### 【0020】

図8～図11は、この発明の第2の実施の形態を示す。この実施の形態の傘立てBにおいては、傘立て本体1に代えて傘立て本体1' が用いられている。傘立て本体1' は、左右方向に互いに離れて配置された一对の基部7, 7を有しており、一对の基部7, 7は、それらの間に配置された連結部材8によって連結固定されている。各基部7, 7の下面の前端部と後端部とは、ストップ機構付きのキャスターKが設けられている。これにより、傘立てBを容易に移動させることができるとともに、所望の位置に位置固定することができるようになっている。各基部7, 7の上面には、支柱部8, 8がそれぞれ鉛直に立設されている。支柱部8, 8の上下方向における中間部には補強部材9が架け渡されている。支柱部8, 8の上端部間には、回動部材10が左右方向に延びる水平な軸線を中心として回動可能に設けられている。支柱部8, 8の下端部間には、水受け部3の基端部が水平な軸線を中心として回動可能に支持されている。

## 【0021】

回動部材 10 には、複数の支持部材 11 の各基端部が固定されている。各支持部材 11 は、回動部材 10 の長手方向（左右方向）へ互いに離れて配置されている。しかも、各支持部材 11 は、回動部材 10 の周方向において同一位置に配置され、互いに平行に同一方向に延びている。勿論、各支持部材 11 は、使用位置ではほぼ水平になっており、収容位置ではほぼ鉛直になっている。支持部材 11 の左右方向の両側部には、傘保持具 5, 5' が支持部材 11 の長手方向に沿って複数個ずつ設けられている。左右に隣接する支持部材 11, 11 のうちの、一方の支持部材 11 に設けられた傘保持具 5 (5') と他方の支持部材 11 に設けられた傘保持具 5' (5) との間には、傘を前後方向へ移動させるだけの隙間が形成されている。この隙間は、その前端部から傘を後方へ挿入することができるよう前端部が開放されている。支持部材 11 及び水受け部 3 は、支持部材 11 を収容位置に回動させた後、水受け部 3 を折畳位置に回動させ、水受け部 3 を支柱部 8 に設けられた係止部材 8 a に係止させることにより、支持部材 11 及び水受け部 3 をそれぞれ収容位置及び折畳位置に維持することができる。

## 【0022】

図 12 ～ 図 15 は、この発明の第 3 の実施の形態を示す。この実施の形態の傘立て C においては、傘立て本体 1" が用いられている。この傘立て本体 1" においては、水受け部 3 の下面部にキャスター K が設けられている。水受け部 3 の前面には、左右方向に離れて配置された複数の前支柱部（支柱部）12 の各下端部固定され、水受け部 3 の背面には、左右方向に離れて配置された複数の後支柱部（支柱部）13 の各下端部が固定されている。前後方向に対向する前支柱部 12 と後支柱部 13 との上端部には、前後方向へ水平に延びる支持部材 14 の前端部と後端部とがそれぞれ支持固定されている。つまり、上記二つの実施の形態では、支持部材 4, 11 が片持ち状態であったのに対し、この傘立て C では、支持部材 14 が両持ち状態で支持されている。水受け部 3 の左右の側面（基準面）3 a, 3 b は、傘立て C 全体のいずれの箇所より左右方向において外側に位置しており、傘保持具 5, 5' の各側面 5 a に対し、上記の第 1 の実施の形態の側面 2 d, 2 e と側面 5 a との関係と同様の関係をもって離間させられている。したがっ

て、複数の傘立てCについては、一方の傘立てCの側面3a(3b)と他方の傘立てCの側面3b(3a)とを互いに面接触させた状態で左右に並べることにより、複数の傘立てCをあたかも一つの傘立てであるかのようにして使用することができる。

#### 【0023】

なお、この発明は、上記の実施の形態に限定されることなく、適宜変更可能である。

例えば、上記の実施の形態においては、使用位置に位置している支持部材4, 11, 14を水平に配置しているが、前方へ向うにしたがって下方へ向うように傾斜させて配置してもよい。

また、第2の実施の形態の傘立てBでは、キャスターKが左右の支柱部8, 8の外側の側面8a, 8aより外側に位置しているが、キャスターKを側面8aより内側に設けとともに、側面8aと傘保持具5(5')の側面5aとの関係を第1の実施の形態のそれらの関係と同様にすることにより、側面8aを基準面とすることができ、複数の傘立てBを左右に並べて使用することができる。

さらに、上記の実施の形態においては、側面2d, 2e; 8a, 8a, 3a, 3b全体を基準面としているが、それらの一部に基準面を形成し、複数の傘立てを左右に並べたときにその基準面だけを接触させるようにしてもよい。

さらにまた、この発明の傘立ては、躯体の壁部に収容可能に設けることも可能である。そのような傘立てでは、躯体の壁部が傘立て本体として用いられる。傘立て本体をなす壁部の壁面には、上下に延びる凹部が形成される。この凹部の上端部には支持部材が使用位置と収容位置との間を回動可能に設けられ、凹部の下端部には水受け部が水受け位置と折畳位置との間を回動可能に設けられる。躯体の壁面の凹部に対して左右いずれかに一方に隣接する箇所には、化粧蓋が設けられる。収容位置及び折畳位置にそれぞれ回動した支持部材及び水受け部、並びに支持部材に取り付けられた傘保持具は凹部に収容される。そして、開位置から閉位置に回動させられた化粧蓋によって凹部が閉じられ、支持部材、水受け部及び傘保持具が外部から遮蔽される。

#### 【0024】

**【発明の効果】**

以上説明したように、この発明によれば、傘を空いている傘保持具まで前方から移動させることができる。しかも、傘を空いている傘保持具まで移動させる際に一旦傘立てより上方へ移動させる必要がないので、傘に付着した雨水によって傘立てに既に保管された他の傘保持具の柄部等を濡らすような事態を未然に防止することができ、さらに傘保持具の設置数を増やすことができるという効果が得られる。

**【図面の簡単な説明】****【図 1】**

この発明の第 1 の実施の形態を示す側面図である。

**【図 2】**

同実施の形態の平面図である。

**【図 3】**

同実施の形態の正面図である。

**【図 4】**

同実施の形態を、支持部材及び水受けを支柱部内に収容した状態で示す平面図である。

**【図 5】**

同実施の形態の支持部材の両側部に取り付けられた一対の傘保持具を示す平面図である。

**【図 6】**

同傘保持部の正面図である。

**【図 7】**

同傘保持具の側面図である。

**【図 8】**

この発明の第 2 の実施の形態を示す正面図である。

**【図 9】**

同実施の形態の平面図である。

**【図 10】**

同実施の形態の側面図である。

【図 1 1】

同実施の形態を、支持部材を収容位置に、水受け部を折畳位置にそれぞれ回転させた状態で示す側面図である。

【図 1 2】

この発明の第 3 の実施の形態を示す正面図である。

【図 1 3】

同実施の形態の平面図である。

【図 1 4】

同実施の形態の側面図である。

【図 1 5】

図 1 3 の X-X 線に沿う断面図である。

【符号の説明】

- A 傘立て
- B 傘立て
- C 傘立て
- 1 傘立て本体
- 1' 傘立て本体
- 1'' 傘立て本体
- 2 支柱部
- 2 d 側面 (基準面)
- 2 e 側面 (基準面)
- 3 水受け部
- 4 支持部材
- 5 傘保持具
- 5' 傘保持具
- 8 支柱部
- 8 a 側面 (基準面)
- 1 1 支持部材

1 2 前支柱部 (支柱部)

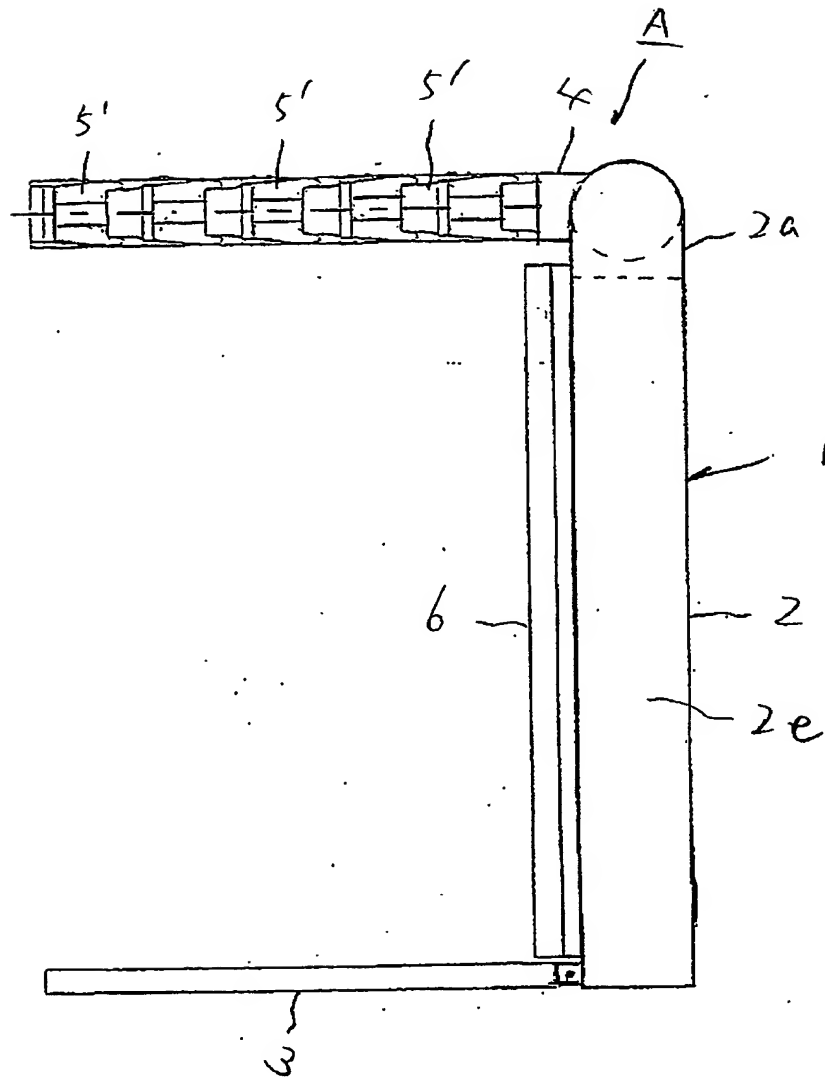
1 3 後支柱部 (支柱部)

1 4 支持部材

【書類名】

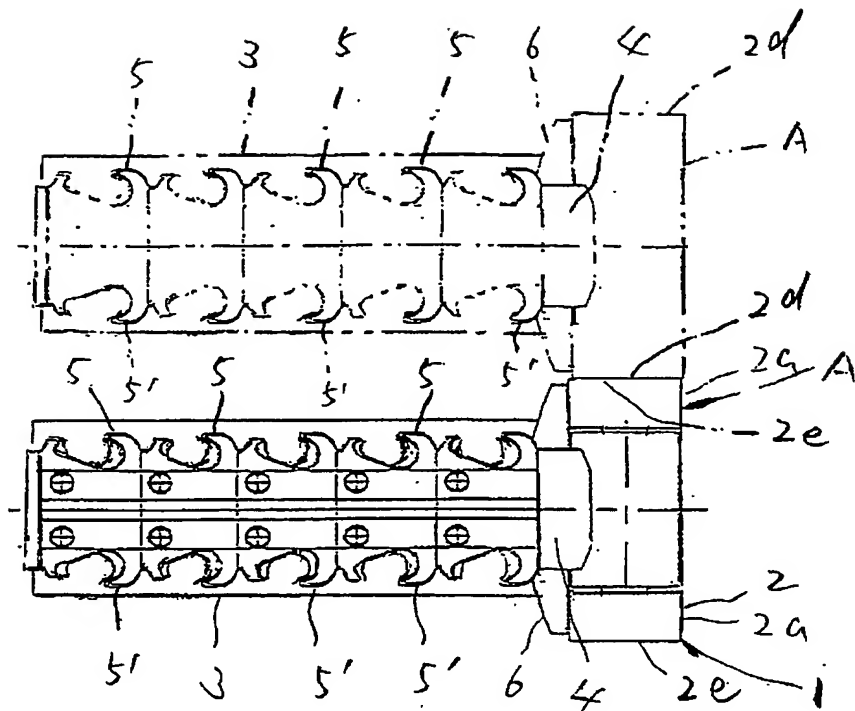
図面

【図 1】

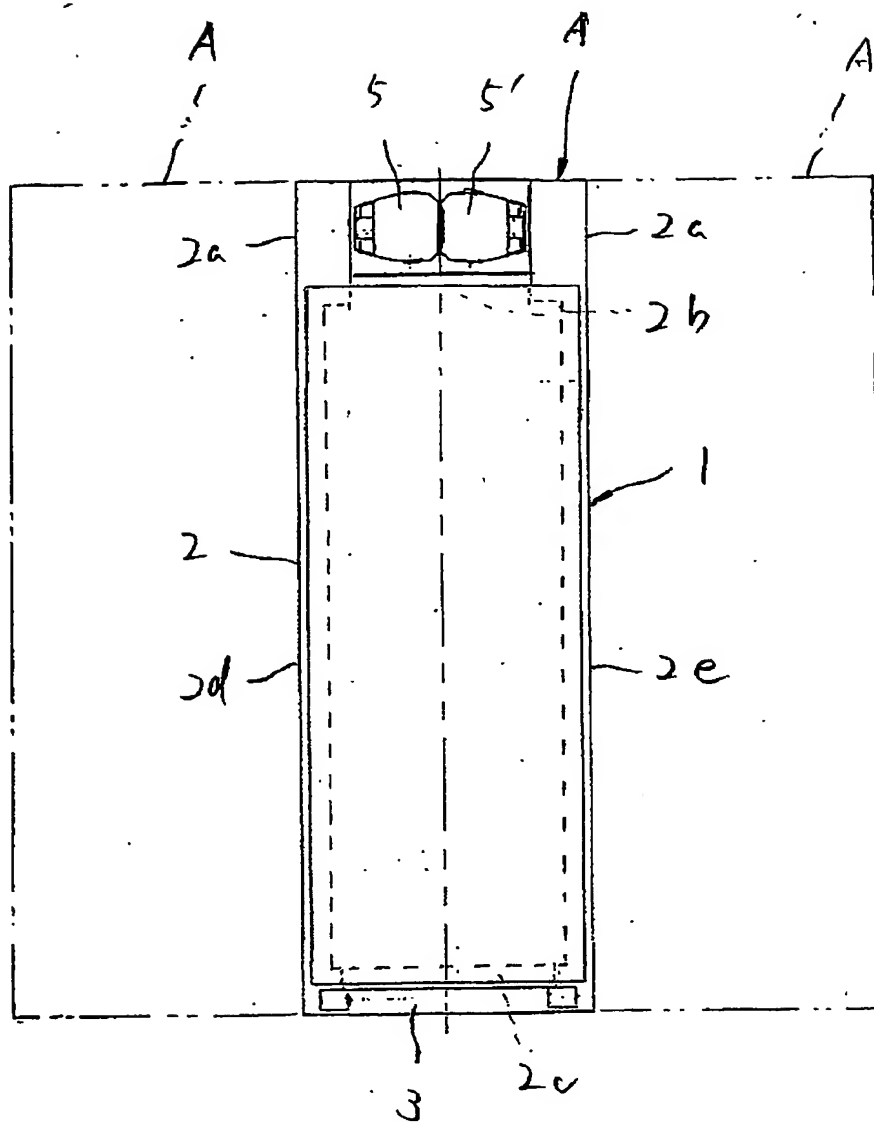




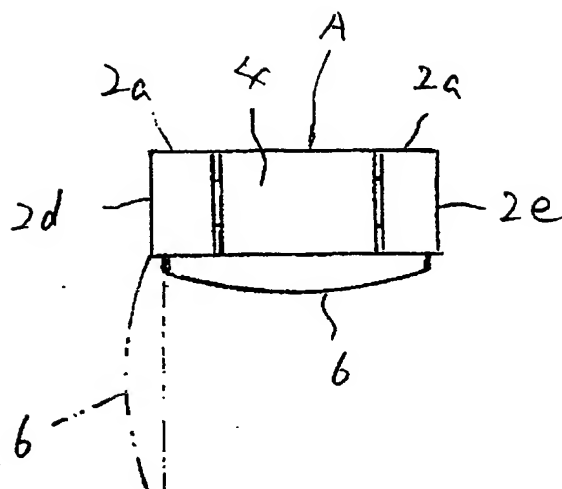
【図 2】



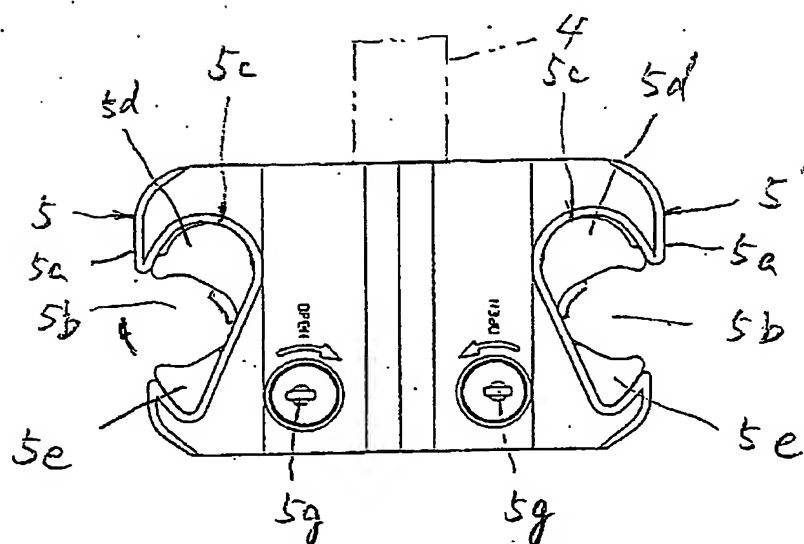
【図 3】



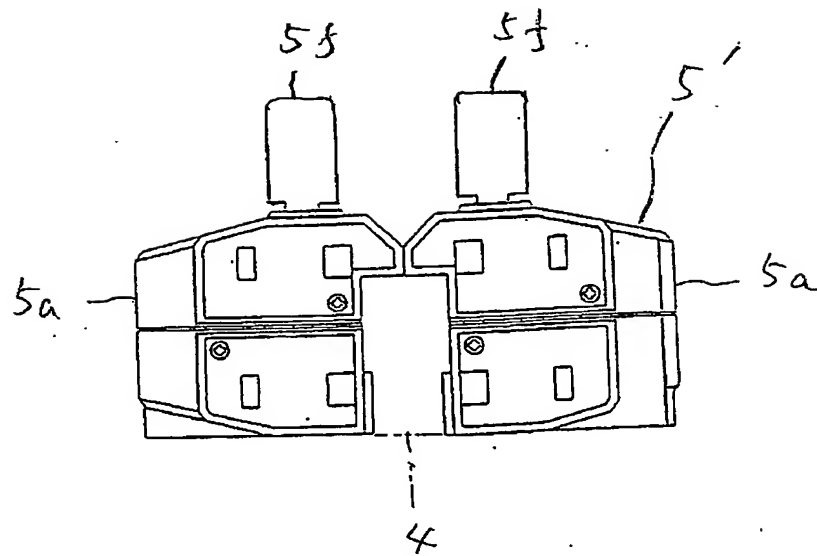
【図 4】



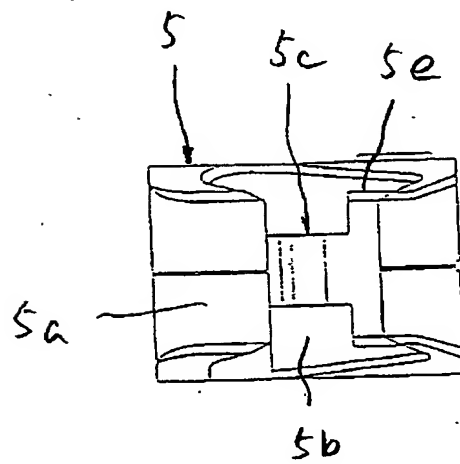
【図 5】



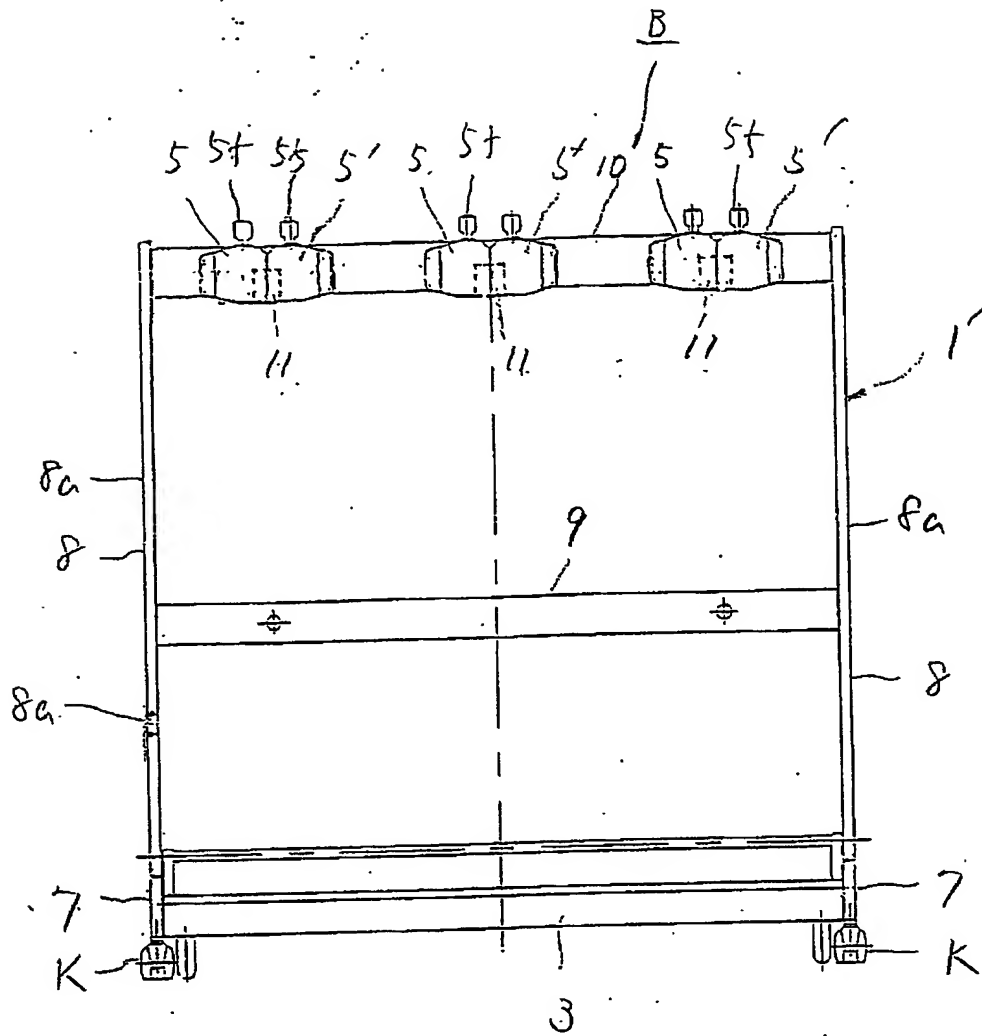
【図 6】



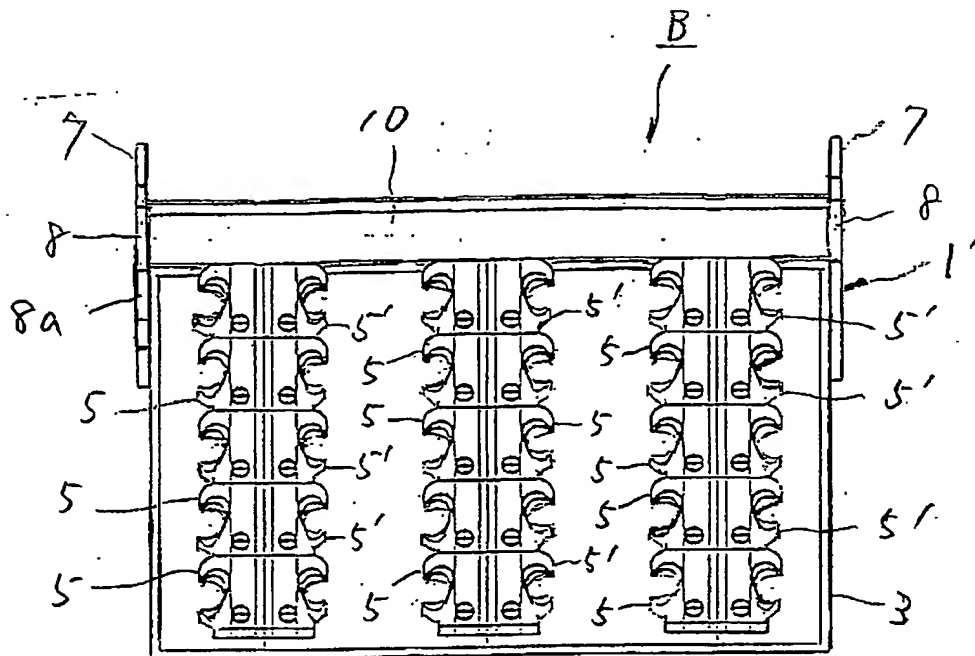
【図 7】



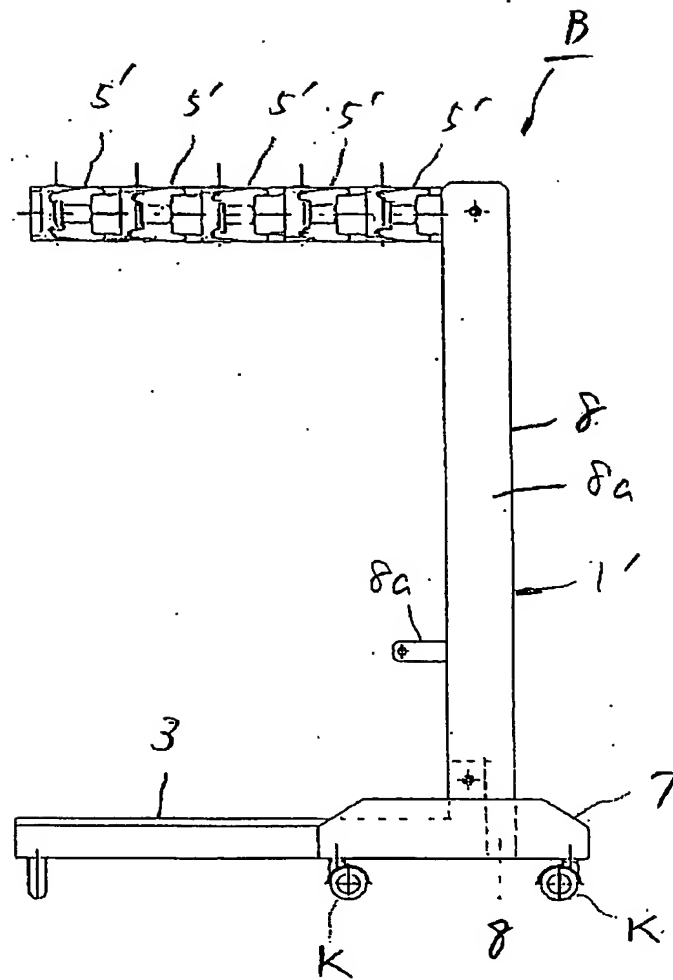
【図 8】



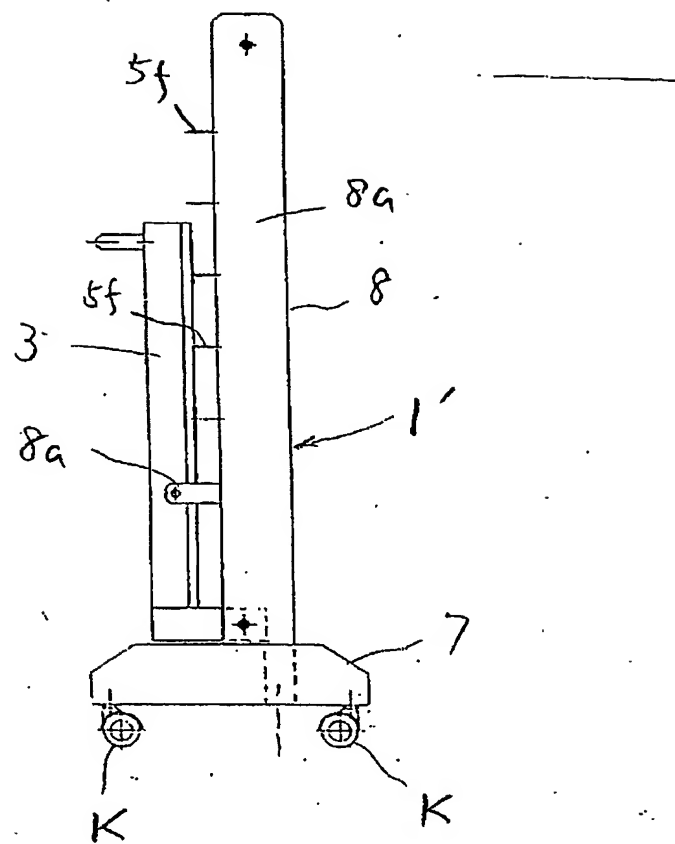
【図 9】



【図 10】

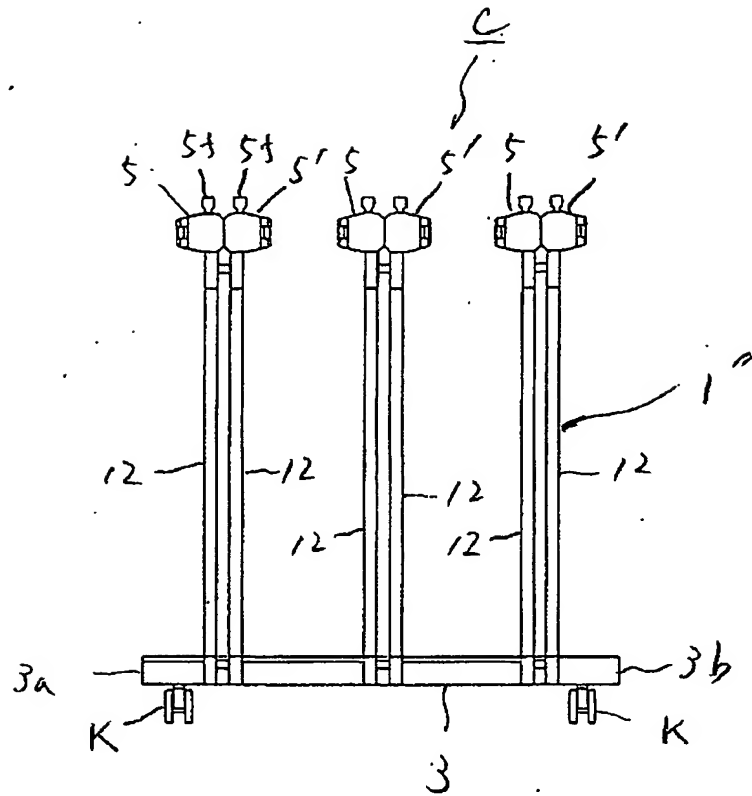


【図 11】

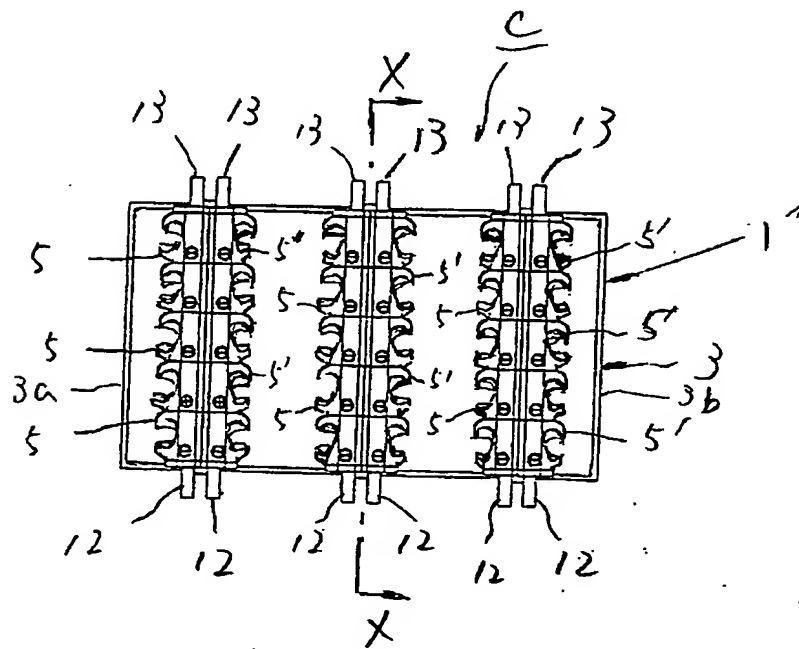




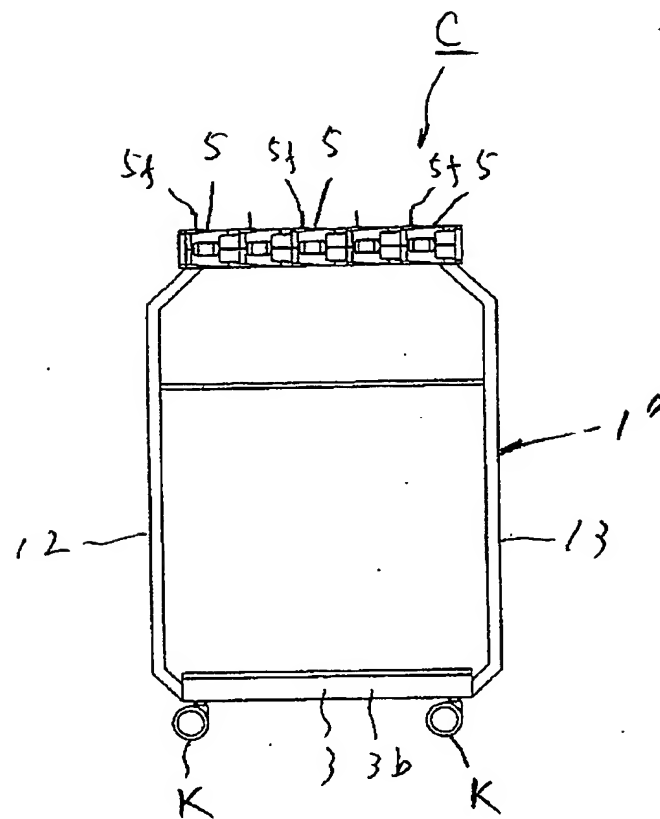
【図12】



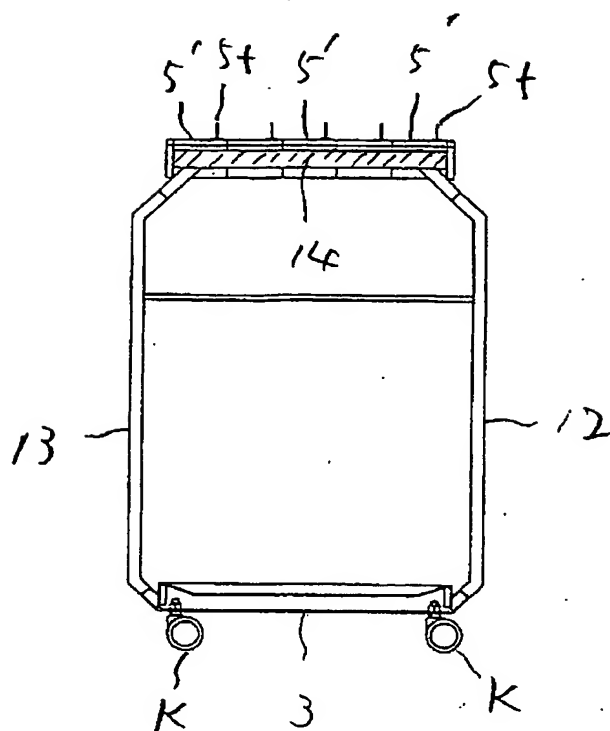
【図13】



【図 14】



【図 15】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 傘を前方から後方へ移動させて空いている傘保持具まで移動させることができる傘立てを提供する。

【解決手段】 傘立て本体 1 の上下に立設された支柱部 2 の上端部には、水平に配置された支持部材 4 の基端部を支持させる。支持部材 4 の左右両側部には、複数の傘保持具 5, 5' を支持部材 4 の長手方向（前後方向）に並べて配置する。支柱部 2 の下端部には、水平に配置された水受け部 3 の基端部を支持させる。傘保持具 5, 5' に保持された傘から落ちる水滴を水受け 3 によって受け止める。

【選択図】 図 2

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2003-115762
受付番号	50300656635
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成15年 4月22日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成15年 4月21日
-------	-------------

次頁無

特願 2 0 0 3 - 1 1 5 7 6 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[ 0 0 0 1 0 7 5 7 2 ]

- |          |                     |
|----------|---------------------|
| 1. 変更年月日 | 1 9 9 0 年 8 月 2 9 日 |
| [変更理由]   | 新規登録                |
| 住 所      | 東京都千代田区東神田1丁目8番11号  |
| 氏 名      | スガツネ工業株式会社          |
| 2. 変更年月日 | 2 0 0 1 年 8 月 2 3 日 |
| [変更理由]   | 住所変更                |
| 住 所      | 東京都千代田区東神田1丁目8番11号  |
| 氏 名      | スガツネ工業株式会社          |